

## 防衛研究所長開会挨拶

ただ今ご紹介いただきました防衛研究所長の大越です。

インターネットの防衛庁ホームページや新聞等を通じて、本シンポジウムの参加者を募りましたところ、本日はご多用にもかかわらず、このように多数の方々のご来場を頂き、主催者として御礼申し上げます。

防衛研究所がこのようにして公開の場でシンポジウムを開催するのは初めてのことであります。従いまして、シンポジウムの開催に当たり、本シンポジウムの目的などについて一言述べさせていただきたいと思っております。

防衛研究所は従来、国内外の研究者等を招待し、毎年国際共同特別研究会を開催しておりました。これは、その時々に適した世界的、地域的に関心を呼んだテーマを取り上げて、防衛研究所の研究活動に資することを目的として開催したものであり、原則非公開の研究会でありました。けれども、最近になりまして、多くの方々が安全保障問題に深い関心を寄せるようになり、そのことを背景に、内外の著名な研究者等を招待して行う研究会を防衛研究所だけのものとするのではなく、広く一般の皆様にも公開いたしますとともに、ご質問やご意見を賜り、今後の私どもの研究活動や、ひいては防衛政策等に生かしていければという考えから、このように公開の場でシンポジウムを行うこととした次第です。

次に、今回「21世紀初頭の北東アジアの戦略環境」というテーマを取り上げました狙いを簡単に申し述べたいと思っております。

20世紀はまさに「戦争の世紀」と言われております。それは、二次にわたる世界大戦とその後に続いた冷戦という力を背景とした対立を基調とする時期でありました。

いま、冷戦の終焉から10年を経て、北東アジアの地域においても、二国間ベースではありますが、ようやく日米中露の間で安保対話・防衛交流が進展するなど、協調的安全保障を模索する動きがでてきております。こうした流れの中で、本シンポジウムにおいては、抑止と対処、並びに協調的安全保障論を対比させつつ議論を行い、21世紀初頭に想定されるこの地域の戦略環境の特徴を明らかにしつつ、この地域を舞台とした多国間の協調的安全保障レジームの成否を検討していただきたいと思います。

考えている次第です。

21 世紀を目前に控えた今日、北東アジアにおいては、領土問題や大量破壊兵器の拡散等、依然として多くの不安定要因が存在していることは否定できません。多様性こそがアジアの特色であるとはよく言われることですが、そのような違いを互いに乗り越えて、ともに、21 世紀を「平和と繁栄の世紀」とするため、広く内外の英知を結集すべき時であると考えております。

本日から明日にかけて、会場の皆様をも含めまして活発な議論が行われ、本シンポジウムから北東アジアの明日への指針を見出すことができればと思っております。

最後に、重ねてご多忙中にもかかわらず本シンポジウムにご来場頂きました皆様に心より御礼を申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

平成 11 年 1 月 13 日

防衛研究所長

大越 康弘